

3月18日（火）の8時から、郵政産業労働者ユニオン王子支部の組合員8名が、2014春闘勝利での賃金引上げと非正社員の正社員化・均等待遇・大幅増員を求めて、1時間のストライキに突入しました。

北区地域ユニオンも、**激励と連帯を込めて参加してきました。**

郵政産業労働者ユニオン（日本郵政グループ内の労働組合で全労協に加盟、以下郵政ユニオンと呼びます）は、3月18日（火）に正規・非正規の賃金引上げと均等待遇、正社員の大幅増員を要求してストライキに突入しました。日本郵政グループには、42万人社員の内、実に19万4000人が非正規労働者として働いています。郵政ユニオンは正社員と月給制契約社員は2万円、時給制社員は時給150円の賃金引上げを要求しています。

ストライキは全国28の拠点職場で実行され、72名が突入しました。東京では王子・銀座・玉川の3郵便局でストライキに突入しました。

地元北区の王子郵便局では、郵政ユニオン王子支部の組合員8名（非正規4名、正規4名）が8時から9時までの1時間のストライキに突入しました。7時30分からのストライキ突入激励集会には、我々北区地域ユニオンの組合員10名を始め、新社会党福田光一北区議会議員（北区地域ユニオン特別執行委員）、北部全労協、練馬全労協、練馬地域ユニオンなどが結集しました。

北区地域ユニオンを代表して、飯嶋委員長が北区地域ユニオンの闘いを報告しながら、本日のストライキについて、地元北区の労働組合として全面的な支援と激励を込めた連帯挨拶を行い、福田光一区議（北区地域ユニオン特別執行委員）は非正規労働者が3分の1を超える社会のあり方そのものを糾弾して郵政ユニオンへの連帯と激励の挨拶を行いました。

今回は8時から9時までの1時間のストライキではありましたが、日本の労働組合のストライキが激減している中で、しかも短時間とはいえ非正規の組合員が4名ストライキに突入したことは、大変意義のある闘いだと言えます。

激励と連帯挨拶を行う
北区地域ユニオンの
飯嶋委員長